

第169期 株主通信

平成27年4月1日 ▶ 平成28年3月31日



Contents

株主の皆様へ	01
連結業績ハイライト	01
主要連結財務データ	02
セグメント別業績	03
トピックス (1) 千住大橋駅周辺地区の移り変わり	05
トピックス (2) 富士宮第2工場竣工	07
商品紹介 あしたも走ろっ。/Collaget400 BSE検査キット/バイオマッシャー メディゼラチン	07
連結財務諸表	09
会社の概況/株式情報	10

株主の皆様へ

ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ここに当社グループの第169期連結事業に関してご報告を申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、各種政策の効果もあり、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

当社グループにおきましては、為替変動により不安定な要素はあったものの、ゼラチン事業の回復、安定的な不動産収益、また、エネルギーコストの低減などにより、売上高、経常利益、当期純利益は減収増益となりました。

今後につきましては、コラーゲン・ケーシング事業における新工場の安定稼働を図り、生産性の向上とコスト削減に努め、競争力のある商品づくりを推し進めてまいります。また、引き続きバイオ関連事業を次期の主力事業に育成するため、経営資源を効率的に投入し、さらなる経営体質の強化に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、何とぞ一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



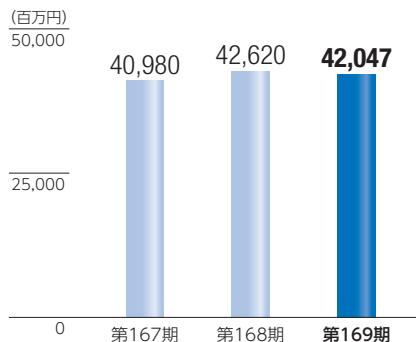
代表取締役社長

伊藤隆男

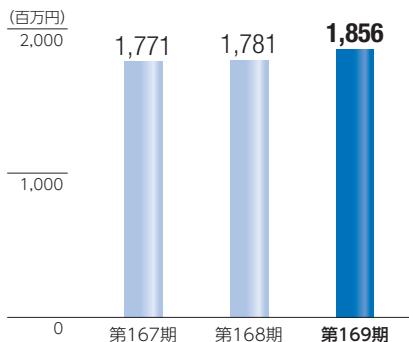
平成28年6月

連結業績ハイライト

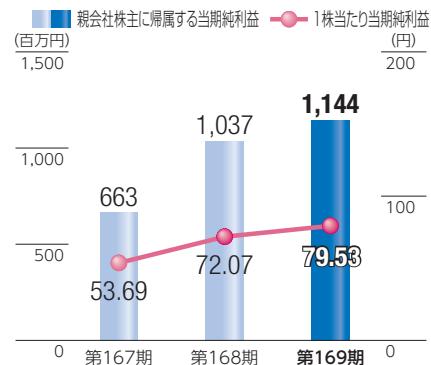
売上高



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益/1株当たり当期純利益



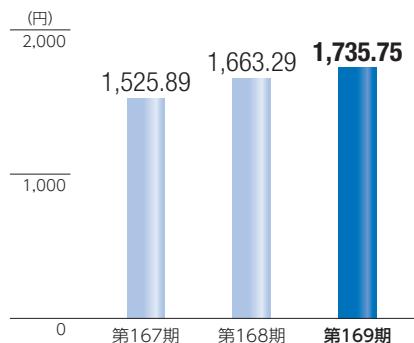
主要連結財務データ

項目		期別	第167期 (H25.4.1~H26.3.31)	第168期 (H26.4.1~H27.3.31)	第169期 (H27.4.1~H28.3.31)
売上高	(百万円)		40,980	42,620	42,047
経常利益	(百万円)		1,771	1,781	1,856
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)		663	1,037	1,144
一株当たり	当期純利益 (円)		53.69	72.07	79.53
	純資産 (円)		1,525.89	1,663.29	1,735.75
総資産	(百万円)		61,789	63,975	64,497
純資産	(百万円)		22,277	24,255	25,361

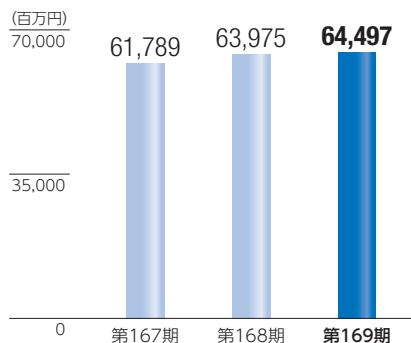
売上高は減少したものの、原料価格やエネルギーコストの低減などで経常利益は増益となりました。

利益剰余金、土地再評価差額金等が増加したことなどにより、純資産は前年に比べて増加しました。また、自己資本比率は38.72%となり、1.31ポイント上昇しました。

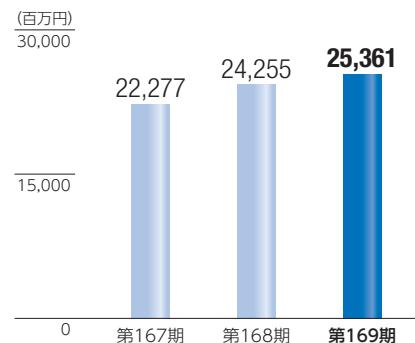
1株当たり純資産



総資産



純資産



セグメント別業績

コラーゲン・ケーシング事業

売上高

9,263百万円

(1,046百万円減)
(前期比 89.9%)

営業利益

1,865百万円

(208百万円減)
(前期比 89.9%)

国内営業部門は、近年高騰していた天然腸の価格が落ち着くことにより羊腸に回帰する傾向がみられ苦戦しましたが、主にコンビニエンスストア向けに販売しているフランクフルトサイズは好調に推移しました。

海外営業部門は、主要取引先である米国やタイにおいて競合他社の攻勢が強まり市場競争が激化するなか、新たな市場の開拓に努めるなど販売促進に注力しました。

なお、富士宮第2工場は、2015年12月に建屋の工事が完了し、2016年3月より増設した6ライン全ての稼働を開始しました。現在は生産品質の安定化に取り組んでおります。



▲コラーゲン・ケーシング
使用製品

ゼラチン関連事業

売上高

8,286百万円

(781百万円増)
(前期比 110.4%)

営業利益

572百万円

(518百万円増)
(前期比 1,073.0%)

ゼラチン部門は、積極的に提案活動を行っていた新規ゼラチンが採用され、食品用途（健康食品ソフトカプセル用途、惣菜用途、グミキャンディ用途など）の売り上げが好調に推移し増収増益となりました。今後も積極的な提案活動を継続し、新規顧客獲得に努めてまいります。

ペプチド部門は、海外の展示会に出展するなど売り上げの拡大に努めました。また、インバウンド需要の増加もあり増収増益となりました。引き続き海外での拡販活動を行うとともに、新規ペプチドの提案活動を通じて国内需要の拡大に努めてまいります。



▲カプセル

不動産・賃貸事業

売上高

697百万円

(2百万円減)
(前期比 99.6%)

営業利益

514百万円

(14百万円減)
(前期比 97.2%)

東京都足立区、大阪市浪速区ともに、賃貸事業は堅調に推移しました。また、千住大橋駅周辺再開発地区ポンテグランデTOKYOにおける開発事業は順調に推移しております。東京都が進めている当該地区におけるスーパー堤防事業も、残

り区画の工事が始まりました。

当社保有土地につきましては、今後も市場、経済環境を注視しながら、暫定利用を併用し、開発を推進してまいります。なお、G街区につきましては、近隣の小学校改築工事に伴う仮設校舎新設用地として、東京都足立区との賃貸契約が決定しております。



▲スーパー堤防(千住隅田川テラス)

化粧品関連事業

売上高

3,469百万円

(20百万円増)
(前期比 100.6%) ↑

営業利益

166百万円

(139百万円減)
(前期比 54.3%) ↓

化粧品部門は、「高機能」にフォーカスしたリニューアル商品の販売促進に取り組むとともに、初回お試し品の価格・内容量を見直すことで新規顧客の獲得を図りましたが減収となりました。

健康食品部門は、インフォーマーシャルの集客力を活用した販促活動が順調に推移し増収となりました。なお、積極的に広告宣伝を行ったこともあり営業利益は減益となりました。

2016年3月より、新「ホワイトニング」シリーズの販売を開始しました。本製品はお客様の声に応じて進化を遂げた、大人の肌のための薬用美白シリーズです。本製品を中心に販促活動に注力してまいります。



▲ホワイトニングシリーズ

皮革関連事業

売上高

11,096百万円

(46百万円減)
(前期比 99.6%) ↓

営業利益

301百万円

(12百万円減)
(前期比 96.2%) ↓

靴・袋物部門は、紳士靴用革は堅調に推移したものの、婦人靴用革は、ファッショントレンドのスニーカー、カジュアル傾向を背景にロングブーツ需要が低下するなど減収となりました。

車輻部門は、引き続き増加傾向にある受注に対応するため、中国製造拠点の効率化に注力し順調に推移しました。

皮革業界の縮小傾向は続いており、厳しい環境が続いております。このような状況のなかで、革・裁断革・製甲・靴・衣料・底材加工等、全方位に対応できるという当社の強みを生かして、取引先との情報共有および連携の強化に努め、業界の再編成に対し万全の態勢を築いてまいります。



▲紳士靴

食品その他事業

売上高

9,233百万円

(279百万円減)
(前期比 97.1%) ↓

営業利益

286百万円

(27百万円減)
(前期比 91.3%) ↓

イタリア関連食材は、ユーロ高、円安により輸入コストが上昇するなかで、新規商材の提案による顧客の獲得と既存顧客の定着に注力したことにより好調に推移しました。

リンカー・化成品は、厳しい市場のなかで製品開発に注力

しましたが、売り上げは減少となりました。

BSE検査キット、iMatrix-511は順調に推移しました。

iMatrix-511につきましては、当社が製造し、株式会社マトリクスームが国内外の大学・研究機関向けに拡販してまいります。なお、同社は、当社および大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社等の出資により運営している会社です。



▲各種イタリア食材

トピックス(1) 千住大橋駅周辺地区の移り変わり

当社は、東京本社所在地周辺において、京成本線千住大橋駅前に広がる12万㎡超の複合タウン構想「ポンテグランデ TOKYO」地区再開発計画を手掛けており、「うるおい・活気・安全」なまちづくりの実現のため、地域の皆様とともに足立区、共同事業者と協力しながら順次推進しております。

本開発事業についてこれまでの経緯を振り返ってみますと、当社創業よりの基幹事業であった皮革事業の縮小に伴って皮革工場集約計画に着手し始めた平成10年頃より、徐々に遊休土地の有効活用の推進機運が高まり、足立区、独立行政法人都市再生機構、株式会社リーガルコーポレーション、および当社の4者が構成される千住大橋駅周辺地区まちづくり事業がスタートして今日に至ります。わずか10数年の間に、周辺は大きく変貌を遂げました。当社としては、足立区が推進するまちづくり計画に基づき、「良好な活気あるまちづくり」に貢献すべく再開発事業を推し進め、当社創業110周年を迎える今年、賑わい溢れる新しい景色が広がっております。

開発事業開始時の千住大橋駅周辺

a 旧 本社事務所



昭和17年に建築され、そのレトロな雰囲気でお馴染みだった旧本社事務所は、平成23年2月に解体されました。

b 旧 バイオマトリックス研究所



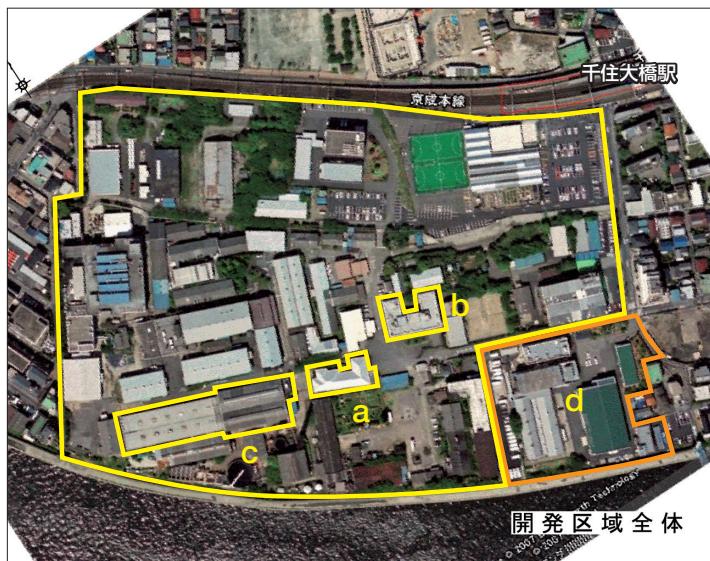
バイオマトリックス研究所は、平成18年9月に茨城県取手市へ移転しました。

c 旧 皮革鞣工場



明治40年の創業以来100年受け継がれてきた皮革生産事業でしたが、平成19年3月をもって東京での生産活動を停止しました。

▼平成10年頃の当社事務所工場全景



d 株式会社リーガルコーポレーション



当社の兄弟会社兼お隣さんとして、当地で長年営業されてきた「リーガルさん」は、平成22年8月に浦安市へ移転しました。

トピックス(2)

富士宮第2工場竣工

当社は、平成25年12月に公募増資による資金調達を行い、コラーゲン・ケーシング製造ラインの増設に取り組んでおります。

平成26年4月より、静岡県富士宮市の当社敷地内の建設用地において新工場の建設に着手しました。工事は、建設資材高騰などの影響を受けて一部見直しを行ったため当初の計画より遅れましたが、平成27年12月に最初の製造ラインのテスト稼働を開始しました。平成28年1月以降は、順次残りの製造ラインを立ち上げ、最終的に6ラインの製造設備からなる新工場（富士宮第2工場と命名）が完成しました。

平成28年6月1日、新工場の完成を記念し、当社グループおよび工事関係者多数出席のもと、竣工式が執り行われました。今後は製造ラインの微調整を行いながら安定稼働に向け取り組んでまいります。なお、本格的な生産の開始により、約20%の増産が見込まれております。

富士宮第2工場で生産されたコラーゲン・ケーシングが、日本国内・世界各地のハム・ソーセージ工場に出荷され始めています。皆様のご家庭の食卓に上がる日も、もう間もなく



です。（写真上：富士宮第2工場外観、写真下：竣工式の様子）



商品紹介

あしたも走ろっ。 / Collaget400



ある調査によると犬の平均寿命はこの30年間で約2倍に伸びているそうです。しかし、年とともに体の調子が悪くなってしまふのは人も犬も同じです。

犬のからだをつくっているタンパク質は、約20種類のアミノ酸からできています。このうち10種類が「非必須アミノ酸」と言い、体内で合成できるアミノ酸です。しかし、その合成量は、加齢とともに減少することが知られています。現在のドッグフードの規格では体内で合成されない必須アミノ酸については栄養基準が設けられていても、非必須アミノ酸については基準がありません。このため多くの犬は「非必須アミノ酸」が不足していると考えられます。

コラーゲンは、からだに欠かせない「非必須アミノ酸」を豊富に含んだ良質の動物性タンパク質です。愛犬の元気で長生きを応援するため、ニッピは犬用コラーゲンサプリメントの販売を始めました。動物病院専用の『Collaget400（コラーゲット400）』（タブレット状）と、主にペットショップ向けの『あしたも走ろっ。』（粉末状）の2種類を取り扱っております。

BSE検査キット／バイオマッシャー



当社は、BSE（牛海綿状脳症）がウシからヒトへ伝達する可能性が示唆された平成8年より、動物衛生研究所と共同でBSEの原因であるプリオン蛋白質の基礎研究を行ってまいりました。その基礎研究と並行して、BSEのより効率的な検査を目指し開発された製品が『ニッピルBSE検査キット』です。本検査キットを開発する過程で開発された『バイオマッシャー』を組み合わせたキットは平成18年に製造販売承認を得て、動物用体外診断用医薬品として製造販売を開始し、平成24年の産学官連携功労者表彰の農林水産大臣賞を受賞いたしました。

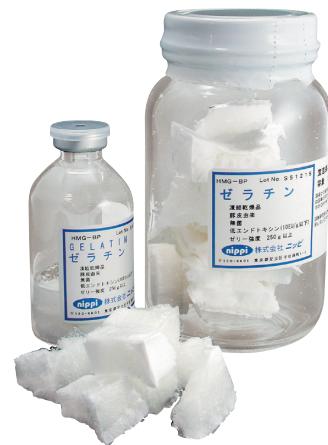
バイオマッシャーは、「試料を破砕するための器具」です。BSEの検査は、試料を採取し検査を行える状態までに処理をする「前処理」と、検査を行う「検出」の2工程に分けることができますが、この「前処理」は非常に面倒で危険な操作が含まれています。当社は、独自のBSE検査キットを開発するに当たって、安全性が高く、短時間に行える前処理方法を確立することを目指しました。その結果、誕生したのが当社独自の破砕器具「バイオマッシャー-I」です。その大きな特長は、1) ディスポーザブルのため洗う手間やコンタミの心配がないこと、2) 遠心力とフィルターを利用した破砕方法、3) 遠心分離機を用いた多検体の同時処理が可能なことです。新しい生化学実験用器具として多くの研究者から高い関心を得て、BSE検査キットとは切り離れた単品での販売も行っております。

メディゼラチン

ゼラチンには優れた生体親和性、生体吸収性があり、医療分野への応用が進められています。最近では、重度な損傷に対し、適切な形状でゼラチンを埋め込むと、周辺から細胞が入り、正常な組織へと再生することも知られています。

ゼラチンを医療応用する場合、細菌由来の不純物である、エンドキシンの混入が問題になります。これは、注射や手術等によってエンドキシンが極微量でも直接体内に入ると発熱等が生じるためです。しかしながら、エンドキシンは環境中に普遍的に存在しているもので、ゼラチンの原料となる動物の皮にも多く付着しており、一般に販売されているゼラチンにも経口摂取するには問題のないレベルではありますが含まれています。

ニッピルでは、独自の製法により、エンドキシンをほとんど含まない『メディゼラチン』の開発に成功しました。メディゼラチンは他にも、高いゼリー強度を持つ特長もあり、様々な形状に加工成型できるという利点があります。メディゼラチンは今後、国内外の医療分野の発展に、大きく貢献できる素材になると期待しています。



連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第168期 (平成27年3月31日現在)	第169期 (平成28年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	20,405	19,509
固定資産	43,535	44,966
有形固定資産	38,363	40,066
無形固定資産	268	233
投資その他の資産	4,903	4,666
繰延資産	34	20
資産合計	63,975	64,497
負債の部		
流動負債	21,197	19,583
固定負債	18,522	19,551
負債合計	39,719	39,135
純資産の部		
株主資本	13,848	14,847
その他の包括利益累計額	10,085	10,125
非支配株主持分	321	389
純資産合計	24,255	25,361
負債及び純資産合計	63,975	64,497

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第168期 (平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	第169期 (平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで)
売上高	42,620	42,047
売上原価	33,347	32,796
販売費及び一般管理費	7,246	7,094
営業利益	2,025	2,156
営業外収益	194	164
営業外費用	438	465
経常利益	1,781	1,856
特別利益	16	0
特別損失	169	1
税金等調整前当期純利益	1,629	1,855
当期純利益	1,070	1,198
親会社株主に帰属する当期純利益	1,037	1,144

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第168期 (平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	第169期 (平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,297	2,686
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,813	△2,997
財務活動によるキャッシュ・フロー	△484	645
現金及び現金同等物に係る換算差額	13	△1
現金及び現金同等物の増・減(△)額	△986	334
現金及び現金同等物の期首残高	4,539	3,552
現金及び現金同等物の期末残高	3,552	3,886

会社の概況／株式情報

(平成28年3月31日現在)

■ 会社の概要

商号	株式会社ニッピ
設立年月日	1907年(明治40年)4月1日
資本金	4,404百万円
従業員数	596名(連結対象会社合計)
本社	東京都足立区千住緑町1-1-1
主な事業内容	コラーゲン・ケーシング、ゼラチン、その他コラーゲン関連製品の製造販売および皮革関連製品等の販売
ホームページ	http://www.nippi-inc.co.jp/
主要取引銀行	みずほ銀行 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほ信託銀行

(平成28年3月31日現在)

■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社リーガルコーポレーション	2,077	14.44
大成建設株式会社	1,113	7.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	622	4.32
中央建物株式会社	582	4.05
東京建物株式会社	500	3.48
株式会社みずほ銀行	349	2.43
みずほ信託銀行株式会社	300	2.09
特種東海製紙株式会社	250	1.74
株式会社三菱東京UFJ銀行	210	1.46
JST株式会社	183	1.27

(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(57,729株)を控除して計算しております。

(平成28年6月29日現在)

■ 取締役および監査役

代表取締役社長	伊藤 隆 男
常務取締役	河村 桂 作
取締役	小林 祥 彦
取締役	伊藤 政 人
取締役	橋爪 秀 知
取締役	大浦 顕 逸
取締役(社外)	村上 勝 彦
監査役※	吉田 安
監査役(社外)※	早山 徹
監査役(社外)	大倉 喜 彦

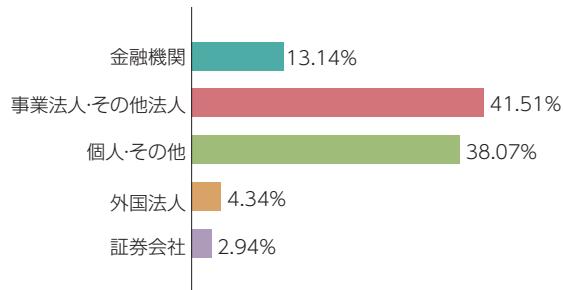
※は常勤監査役

(平成28年3月31日現在)

■ 株式の状況

発行可能株式総数	48,000,000株
発行済株式の総数	14,387,271株
	(自己株式57,729株を除く)
株主総数	2,165名

所有者別持株比率



ホームページのご案内

当社ホームページでは、製品情報、IR情報など様々な情報を掲載しております。



<http://www.nippi-inc.co.jp/>

株主優待

平成28年3月31日現在の株主名簿に記載された、1単元(1,000株)以上を保有されている株主様を対象といたします。

●「ニッピコラーゲン100」1箱(110g×3袋)



7月上旬の発送を予定しております。

●お問い合わせ先
03-3888-6651

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会 基準日	毎年6月 定時株主総会については3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める
配当金受領株主確定日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
1単元の株式数	1,000株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 (郵便物送付先) (電話照会先) 公告方法	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324(フリーダイヤル) 電子公告により当社ホームページに掲載 ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載

【株式に関するお手続きについて】

1. 証券会社等に口座をお持ちの場合、原則として住所変更や買取請求などの株主様の各種お手続きは、ご利用の証券会社等を経由して行っていただくこととなりますので、証券会社等宛ご連絡をお願いいたします。
2. 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、「みずほ証券」本店・全国各支店・プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)、「みずほ信託銀行」本店・全国各支店でお取り扱いいたします。
3. 支払明細の発行に関するお手続きにつきましては、上記「郵便物送付先」宛お問い合わせください。
4. 未払配当金のお支払につきましては、「みずほ信託銀行」本店・全国各支店、「みずほ銀行」本店・全国各支店にお問い合わせください。なお、「みずほ証券」ではお取り次ぎのみとさせていただきます。